

スーパー・メガリージョン構想 最終とりまとめ(骨子案)

平成31年2月12日

国土交通省 国土政策局

最終とりまとめの構成(案)について

第1章 はじめに

- ・スーパー・メガリージョン構想の議論の背景
- ・スーパー・メガリージョン構想検討会の趣旨
- ・我が国が直面する状況の変化

第2章 リニアをはじめとする高速交通ネットワークの形成がもたらすインパクト

- ・「フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーション」が生み出す新たなイノベーション
 - ・「時間と場所からの解放」による新たなビジネススタイル・ライフスタイル
 - ・海外からの人や投資の積極的な呼び込み
 - ・災害リスクへの対応
- …【論点1】

中間とりまとめ
(H30.7公表)
にて整理

第3章 世界を先導するスーパー・メガリージョンになるために

第1節 望まれる将来の姿 …【論点2】

…次節以降にも共通する考え方、施策の方向性

第2節 個性ある三大都市圏の一体化による巨大経済圏の創生 …【論点3】

→主に三大都市圏を念頭においた考え方、施策の方向性

第3節 リニア中間駅から始まる新たな地方創生

→主に中間駅周辺地域を念頭においた考え方、施策の方向性

第4節 スーパー・メガリージョンの形成がもたらす広域的な成長

→リニア沿線地域以外も含めた広域的な効果の拡大を念頭においた考え方、
施策の方向性

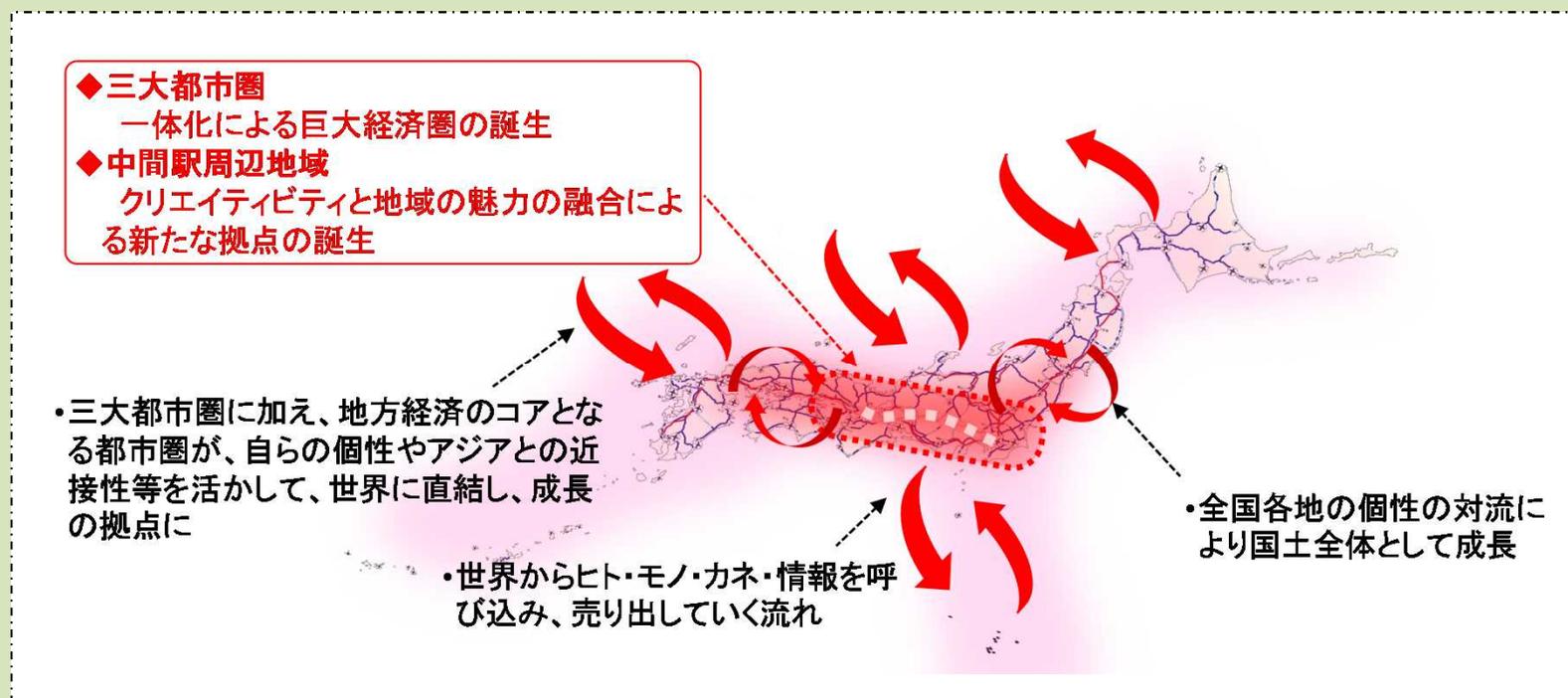
本日も議論
いただきたい
ポイント

次回のご議論
を予定

第4章 終わりに

中間とりまとめ(H30.7.26公表)における整理

- 「グローバルなダイナミズムを取り込み、これまで培ってきた技術や文化を活かした経済成長を実現しながら、各地域が個性を活かして自立する持続可能な国」
- 「都市部においても地方部においても、各個人が望むライフスタイルの実現に向け多様な選択肢を持つことのできる、多様な価値観を支える国」



正のスパイラルの創出により世界を先導するスーパー・メガリージョン

(1) 世界からヒト・モノ・カネを引き付け我が国の成長に結びつけるために

- 国際競争力の強化のためには、既存産業の延長線上の成長ではなく、次世代につながる技術と融合した新たな産業による成長を目指し、世界中からイノベーターや資金を集める核とする必要がある。
- そのためには、まず、国内制度や商慣行等の「内なる国際化」により、グローバルな視点から魅力的なビジネス環境の整備を積極的に推進することが求められる。
- また、国内外の多様な人材が、様々な地域でイノベーションを起こしていくためには、多くのヒトが予定調和無き対流を起こす場(=「知的対流拠点」)が重要となる。
- こうした場を中心に、企業・大学・研究機関等による産業クラスターを形成し、高速交通ネットワークを介して、産業分野の垣根を越えたヒトの対流を活発化させ、フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションを通じた人的ネットワークの広がりとともに圏域間が連携(=「ナレッジリンク」の形成)していくことが期待される。
- ハード面では、魅力的なビジネス環境に加え、医療、教育等、外国人にも優しい居住環境を提供するなど、まちとして豊かなライフスタイルを追求することも重要。そのためには、リニア駅周辺地区だけでなく中心市街地とも連携した都市づくり・地域づくりが求められる。

第3章第1節「望まれる将来の姿」について

(2) 価値観・ライフスタイルの転換を我が国の持続可能な社会に結びつけるために

- ヒトの価値観の転換に伴い、働き方にも変化の兆しがあり、将来的にはジョブ型雇用の普及等、更なる働き方の多様化が想定される。
- これから迎える人生100年時代においては、ヒトの1日の時間の使い方が変化し、通勤・労働・家事・育児・介護等に加え「学ぶための時間」が特に必要となる。高速交通ネットワークによる移動時間の短縮や、AI、IoT等の技術革新による労働・家事等の生産性向上により、「学ぶための時間」を生み出すことが求められる。
- また、「時間と場所からの解放」により、都市部でも地方部でも、誰もが多様なライフスタイルの選択肢を持つことができ、各地域の多様な個性を重視する価値観の下、ヒトの対流が活発化することで、地域の魅力が磨かれ、持続可能な地域として次世代につながっていくことが期待される。
- 加えて、シニア世代による圏域を越えた社会参画を促進し、豊富な知恵や経験をビジネスや地域づくりの価値創造に還元させる環境づくりが求められる。

(3) スーパー・メガリージョンの形成による国土構造の変革への期待

- スーパー・メガリージョンの形成による対流の活発化は、首都圏に人口・諸機能が集中する国土構造から、複数の圏域が多重なネットワークによって結ばれ多様性と代替性で相互につながる巨大なコアを有する国土構造への変革をもたらし、我が国の成長を牽引するとともに持続可能な社会の実現に寄与していくことが期待される。

- 三大都市圏は、単にリニアで結ばれるだけで、巨大な経済圏に変革できる訳ではなく、各都市圏が次世代へつながる発想を持ちながら、自らの個性を際立たせていく必要がある。

首都圏の個性と目指すべき方向性

【世界をリードする国際経済都市機能】

- 複数の国際ビジネス拠点を中心に、グローバル企業や外国人人材に対し優れたビジネス環境を提供し、国際金融機能をはじめ、グローバルな経済都市としての機能の強化を目指す。

【地方創生と国際競争力向上を組み合わせた、新たな成長プラットフォームとしての機能】

- 首都圏の強みである、情報通信・広告サービス・金融等、首都圏に集積した企業が、マーケティング、デザイン、販路、資金調達といった能力を生かし、各地域とともに価値を磨き上げ、世界に向けて広く発信していくことで、大きな相乗効果を生み出す。

中部圏の個性と目指すべき方向性

【ものづくり産業の中核機能】

- ものづくりとデジタル技術の活用による産業の融合・進化によって、EV化・自動化・シェアリング等のモビリティの変化に対し、産業の革新・創造拠点となり、生産性の飛躍的向上を目指す。

【中心性(…日本のハートランド)】

- 中部圏は三大都市圏の中心に位置し、名古屋駅起点の2時間交流圏人口は約6,400万人(全線開業時)と、東京・大阪を抜き全国最大となる。更に、大阪開業までの間は名古屋が起終点となる。
- 中部圏は、ゆとりがあり暮らしやすい環境を有しているほか、日本海から熊野までを含めた広域圏域で見れば、日本古来の文化が自然と融合した、心のふるさとと捉えることができる。

関西圏の個性と目指すべき方向性

【アジアの活力を取り込むゲートウェイ】

- 歴史的に古くからアジアとの交流があるほか、医療・ライフサイエンス分野を中心とした多様な企業・大学・研究開発機関が集積しており、アジアの活力を取り込んだイノベーションの創出を目指す。

【歴史・文化の魅力の最大限活用】

- 日本の重要文化財の約5割が関西圏に集積しており、歴史・文化の魅力を関西圏の個性として世界に発信し、海外からヒトを呼び込む原動力とする。

【西日本とともに成長するスーパー・メガリージョンの西のコア】

- 新大阪駅を高速交通ネットワークの結節点とし、スーパー・メガリージョンの効果向西日本全体に拡大。

「望まれる将来の姿」に結び付けていくために求められる取組(三大都市圏)

- 各都市圏の個性を核としてヒト・モノ・カネ・情報の対流を拡大し、巨大経済圏へと成長していくためには、以下の取組が求められる。
 - 国内外のヒト・モノ・カネ・情報が集まり、新たな国際ビジネスを生み出す環境づくり
…主要国際空港とリニア中央新幹線等を通じて国内外の企業が集まり交流する場づくり。
 - イノベーションにより新たな技術、ビジネスの種を生み出す知的対流拠点の形成
…予定調和なき対流により、新たな起業や研究開発を推進する仕組みづくり。
 - リニア駅を核とした交通結節性の強化
…リニア駅の乗換利便性、高速道路との直結性の確保。都市内交通、空港アクセス、域内主要都市との接続の強化。
 - 災害リスクへの対応
…大動脈の結節点となるリニアターミナル駅周辺の防災機能の強化。

本日、特に議論いただきたいポイント

【全体を通じて】

- 骨子(案)の構成について、他に追記・修正すべき事項はあるか。

【第3章 第1節「望まれる将来の姿」について】

- 「世界からヒト・モノ・カネを引き付け我が国の成長に結び付けるため」の視点、「価値観・ライフスタイルの転換を持続可能な社会に結び付けるため」の視点について、特に強調すべき視点や、他に追記すべき視点はないか。

【第3章 第2節「個性ある三大都市圏の一体化による巨大経済圏の創生」について】

- 「世界からヒト・モノ・カネを引き付け我が国の成長に結び付けるため」の視点から、三大都市圏において、強調すべき視点や取組は何か。

例えば、

※ 首都圏と中部圏、中部圏と関西圏のように、異なる個性をもつ都市圏間の対流を、どのようにして新たなビジネスの創出やマーケットの拡大に繋げていくことが考えられるか。

※ 三大都市圏の役割として、海外企業とその他の圏域の国内企業を結び付ける上で、期待されることは何か。

- 「価値観・ライフスタイルの転換を持続可能な社会に結び付けるため」の視点から、三大都市圏において、強調すべき視点や取組は何か。

例えば、

※ 三大都市圏において、新たなイノベーションを生み出し、我が国の経済成長を支えるクリエイティブ人材のビジネススタイル・ライフスタイルは、どのように変化するか。

参考資料

【論点1】 経済・産業構造や、人々の暮らし、価値観等が今後大きく変わっていく中で、リニアやその他の高速交通ネットワーク(新幹線、高速道路、航空等)等の整備によって、交流・対流に要する時間の劇的な短縮が、ビジネススタイルやライフスタイルにどのような影響を及ぼす可能性があるのか。

- ①経済・産業や、人々の暮らしのスタイルや、価値観は、リニアの整備が進む中長期間に、どう変化
する可能性があるのか。その変化において、人の移動に要する時間が短縮することの意味は何か。
- ②リニアの開業及びその他の高速交通ネットワークの整備によって、例えば、次の点にどのような
可能性があるのか。
 - ・新たな価値創造、研究開発、生産方法、働き方、取引関係の拡大、人材の獲得や育成方法など
にどのような変化を生じさせる可能性があるのか。
 - ・大都市部の高齢者の生きがいや、若者・中高年齢者の自己実現や観光・娯楽・癒しなどに対する
ニーズの増大等、暮らしの質の充実や、そのための新たなビジネスなどに、どのような可能性があ
るのか。
 - ・海外から人や投資を引きつける国際的な魅力の向上について、どのような可能性があるのか。
- ③新たな交通サービスや交通基盤、都市環境などにどのようなことが望まれるか。

※上記について、ゲストスピーカーの意見を伺う。

※尚、リニア開業の見通しは、東京-名古屋間が、2027年頃、東京-大阪間の開業が、2045年頃から
最大8年間前倒しと想定されている。

上記に加えて、

リニアによって生じる時空間的な人口の増大や、産業の集積、知の対流の活発化等による経済効果
について、可能な限り定量的な分析を行う。

検討会の論点

【論点2】 論点1において明らかにされるリニア等の整備効果を「引き出す」ために、各地で共通して取り組むべきことは何か。

- ①企業、大学や研究機関等の交流・対流を促進し、イノベーションの創出につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ②大都市部の高齢者の生きがいづくりなど、暮らしの質の向上に対するニーズに対応し、これを新たな価値創造やビジネスの拡大につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。（セカンドライフにおける新しい幸福を創出するにはどのようにすべきか。）
- ③地域の文化・伝統を引き出し、新たな価値創造につなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。
- ④海外の人と投資を引き付ける魅力ある地域づくりにつなげるためには、何が必要で、何に取り組むべきか。また、海外への情報発信、ニーズの把握はどうするべきか。

【論点3】 論点2を踏まえ、論点1において明らかにされる効果を「引き出す」ための国土デザイン、地域デザインの基本的方向をどう設定すべきか。

- ①三大都市圏の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。
- ②中間駅を中心とする地域の地域づくりで目指すべき基本的な方向はどう設定すべきか。特に、プロモーションや地域ブランディングなどを進めていくためには、どのような要素に着目すべきか。
- ③リニアの効果を全国に拡大するための方策は何か。特に、インフラの質の向上、進化の基本的方向はどうあるべきか。